

リハビリテーション・個別機能訓練・栄養・口腔の一体的取組みに係る効果的なサービス提供の
ための指標及びその指標等の活用のための研究

研究分担者 渡邊多永子（筑波大学医学医療系）

研究要旨

本研究は、リハビリテーション・個別機能訓練・栄養・口腔の一体的取組み（以下、一体的取組み）に係る効果的なサービス提供に資する指標の整理と、それらの活用方法の検討を目的とする。特に、一体的取組みに関して、科学的介護情報システム（LIFE）のフィードバックを現場で効果的に活用するため、有用な指標の整理およびフィードバックを活用した PDCA サイクルの在り方について検討する。

令和7年度は、次年度実施予定の LIFE データを含む匿名介護保険等関連情報データベース（介護 DB）の解析および指標開発に向けて、①データ申請およびデータ整備、②一体的取組みに関する文献レビュー（研究1）、③介護施設・事業所等を対象としたヒアリング調査（研究2）を実施した。

- ① では、LIFE データを含む介護 DB の二次利用申請を行い、承諾を得てデータを受領した。受領後は、データを解析環境内のサーバーに格納し、分析に向けたデータ整備を進めた。
- ② 研究1では、高齢者を対象とした、リハビリテーション、栄養、口腔のうち2つ以上の分野を組み合わせた介入研究に関する文献レビューを実施し、介入内容、評価指標、アウトカム等に関する既存知見を整理した。
- ③ 研究2では、介護施設・事業所を対象としたヒアリング調査を実施し、一体的取組みの実施状況、一体的取組みに関する加算の算定状況、LIFE フィードバックの活用実態および課題等を把握した。ヒアリングでは、多職種連携やカンファレンスを通じて、食事に関する支援や摂食・嚥下支援を中心とした取組みが行われている実態が確認された。一方で、LIFE フィードバックについては、施設全体の傾向把握や情報共有には活用されているものの、個別ケア改善への活用には課題があることが示唆された。

以上より、次年度以降の LIFE データ解析および指標開発に向けた準備を進めるとともに、一体的取組みに関連する指標および LIFE フィードバック活用上の課題を整理した。

A. 研究目的

我が国では高齢化の進展に伴い、要介護高齢者の自立支援および重度化防止を目的としたサービス提供の質の向上が求められている。近年、リハビリテーション・個別機能訓練・栄養・口腔の一体的取組み（以下、一体的取組み）の重要性が指摘されており、介護報酬制度においてもその推進が図られている。また、科学的介護情報シ

ステム（LIFE）を通じて、利用者の状態やケア内容に関するデータを収集・分析し、フィードバックする仕組みが整備されている。

しかしながら、現場においては、LIFE のフィードバックが十分に活用されているとは言えず、一体的取組みの効果的な実施に資する指標の整理や、フィードバックを活用した PDCA サイクルの確立が課題となっている。

そこで本研究では、一体的取組みにおける有用な指標を整理するとともに、LIFE のフィードバックを活用した効果的なサービス提供および PDCA サイクルの在り方について検討することを目的とする。

令和7年度においては、次年度以降の LIFE データ解析および指標開発に向けた準備として、①データ申請およびデータ整備、②一体的取組みに関する文献レビュー（研究1）、③介護施設・事業所等を対象としたヒアリング調査（研究2）を実施した。

B. 研究方法

令和7年度は、次年度以降に実施予定の LIFE データを含む介護 DB の解析および指標開発に向けて、以下の3つの取組みを実施した。

① データ申請およびデータ整備

筑波大学において倫理審査の承認を得た上で研究を開始した。厚生労働省に対して LIFE データを含む介護 DB の二次利用申請を行い、承諾を得てデータを受領した。受領後は、データを解析環境内のサーバーに格納し、分析に向けたデータ整備を進めた。

② 研究1：文献レビュー

高齢者を対象としたリハビリテーション、栄養管理、口腔管理の複合的介入に関する介入研究を系統的にレビューし、その効果と研究動向を整理することを目的とした。PubMed および医学中央雑誌を用いて、高齢者を対象にリハビリテーション、栄養管理、口腔管理のうち少なくとも2つ以上を組み合わせた介入研究を検索した。介入内容やアウトカムの異質性が高かったため、量的統合は行わず質的統合を実施した。

③ 研究2：ヒアリング調査

一体的取組みの実施状況および一体的取組みに関する LIFE フィードバックの活用状況を把握するため、介護施設・事業所を対象としたヒアリング調査を実施した。

対象は、一体的取組みに関連する加算の対象で

ある介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護医療院、通所リハビリテーション等とし、一体的取組みに関する加算の算定状況が異なる複数の施設・事業所を選定した。

調査では、一体的取組みの実施状況、一体的取組みに関する加算の算定状況、一体的取組みに関する LIFE フィードバックの活用実態、現場における課題や改善ニーズ等について情報収集を行った。

C. 研究結果

① データ申請およびデータ整備

筑波大学において倫理審査の承認を得た上で研究を開始した。厚生労働省に対して LIFE データを含む介護 DB の二次利用申請を行い、承諾を得てデータを受領した。受領後は、データを解析環境内のサーバーに格納し、分析に向けたデータ整備を進めた。

② 研究1：文献レビュー

データベース検索およびハンドサーチにより 829 件の文献を特定し、スクリーニングの結果、14 件を解析対象とした。介入の組み合わせは、栄養管理・口腔管理が 6 件、運動・栄養管理が 4 件、運動・栄養・口腔管理が 3 件、運動・口腔管理が 1 件であった。対象者は地域在住高齢者、高齢者施設入居者、通所介護利用者など多様であり、介入内容やアウトカムも研究ごとに異なっていた。身体機能、栄養状態、口腔機能、QOL などの改善が報告されていた一方で、研究間の異質性やバイアスリスクの高さがみられた。

③ 研究2：ヒアリング調査

介護施設・事業所へのヒアリング調査の結果、一体的取組みの実施状況や LIFE フィードバックの活用状況には施設間で差がみられた。

一部の施設・事業所では、リハビリテーション、栄養、口腔に関する多職種連携や定期的なカンファレンスを通じて、食事に関する支援や摂食・嚥下支援を中心とした取組みが行われていた。また、食形態、食事時の姿勢、嚥下状態、栄養状態等に

関する情報共有を行い、リハビリテーション内容や口腔ケア等へ反映している事例もみられた。

一方で、LIFE フィードバックについては、施設全体の傾向把握や情報共有には一定程度活用されているものの、個別ケア改善への活用は限定的であった。その要因として、指標の解釈の難しさ、フィードバック内容やグラフの分かりづらさ、返却までのタイムラグ、LIFE フィードバックの活用方法や、多職種間での共有方法の難しさ等が挙げられた。

また、現場からは、職種を問わず理解しやすい指標や、具体的な介入提案につながるフィードバック方法の必要性が指摘された。

D. 考察

本研究では、一体的取組みに関する文献レビューおよび介護施設・事業所へのヒアリング調査を通じて、一体的取組みに関連する評価指標やアウトカム指標の現状、LIFE フィードバック活用上の課題、介護現場における実施状況や改善ニーズ等を整理した。

文献レビューの結果から、リハビリテーション、栄養管理、口腔管理の複合的介入は、高齢者の身体機能、栄養状態、口腔機能など多面的アウトカムの改善に有効である可能性が示唆された。一方で、介入内容や評価指標は研究間で大きく異なっており、エビデンスの確実性は限定的であった。今後は介入内容やアウトカムを標準化した高品質な研究の蓄積が必要であると考えられた。

さらに、ヒアリング調査からは、多職種連携や定期的なカンファレンス等を通じて、食事に関する支援や摂食・嚥下支援を中心とした一体的取組みを実践している施設・事業所が存在する一方で、LIFE フィードバックの解釈や活用方法、多職種間での情報共有等に課題があることが明らかとなった。

これらの結果から、今後は LIFE データを活用した実証的解析を進めるとともに、介護現場において活用しやすい指標やフィードバック方法、

PDCA サイクルの在り方について検討を深める必要があると考えられた。

E. 結論

本研究班では、令和7年度において、一体的取組みに関する文献レビュー、LIFE データを含む介護 DB 利用に向けた申請およびデータ整備、ならびに介護施設・事業所へのヒアリング調査を実施した。

その結果、一体的取組みに関連する評価指標や、一体的取組みに関する LIFE フィードバック活用上の課題、介護現場における一体的取組みの実施状況および改善ニーズ等を把握することができた。また、次年度以降の LIFE データ解析および指標開発に向けた準備を進めた。

今後は、LIFE データを用いた実証的解析を進めるとともに、介護現場において活用しやすい指標やフィードバック方法、PDCA サイクルの在り方について検討を深め、一体的取組みの推進に資する知見を蓄積していく必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表：なし
2. 学会発表：なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他：なし